

# 保護課

## 1 生活保護

当筑紫保健福祉環境事務所の管轄区域は、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市及び筑紫郡那珂川町の4市1町であるが、生活保護事務については筑紫郡那珂川町のみを管轄している。

那珂川町は、北部西部を福岡市に東部を春日市、大野城市、筑紫野市に南部を佐賀県と接し、町面積 74.99 k m<sup>2</sup>の内 55.56 k m<sup>2</sup> (74.1%) が森林地区となっている。隣接する福岡市の影響で人口は増加の一途をたどっているが、なかでも福岡市に隣接する町の北部の増加が著しい。南部は農業地域が背振山地へと続いている。

平成5年～26年までの21年間に、人口が11,179人(約28.6%)増加している。このように那珂川町は、人口が増加する北部地域と、福岡都市圏に新鮮な食糧を供給する南部地域と分化が進んでいる。

那珂川町の生活保護の状況は、平成5年度に保護の適正化の取り組みや好景気の影響で、被保護世帯117世帯、被保護人員222人、保護率5.8%と最も低値を示した。

平成26年度は、被保護世帯442世帯、被保護人員745人、保護率15%となっており、平成5年と比較すると世帯数で325世帯、保護人員で523人、保護率で9.2ポイントの増で、人口の増加を上回る勢いで、保護率が増となっている。

今後、高齢化率の伸びや管内景気の低迷等の影響により、被保護世帯の増加傾向は続くものと思われる。

平成26年度の保護開始理由としては、傷病(30.7%)が最も多く、次いで転入(19.2%)、貯金等の減少(12.8%)、就労収入の減少(8.9%)、働いていた者との離別(7.6%)、失業(5.1%)の順となっている。

平成27年3月の世帯類型別の構成比は、高齢世帯38.2%(福岡県平均49.4%、以下「県」と略)、母子世帯14.0%(県7.3%)、障害世帯8.5%(県8.9%)、傷病世帯18.4%(県16.3%)、その他世帯20.9%(県18.1%)となっており、県平均と比較した場合、母子世帯が、2.0倍と高くなっている。

また、被保護人員のうち入院患者の割合は5.7%となっている。

### (1) 保護状況

	年 度	5年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
那 珂 川 町	世帯数	12,268	17,432	17,739	17,603	17,828	17,898	18,061	18,307
	人口	38,996	48,325	48,737	49,785	49,924	49,758	49,738	49,909
	65歳以上人口	3,553	7,170	7,612	7,887	8,222	8,872	9,085	9,650
	高齢化率	9.1	14.4	15.6	15.8	16.5	17.4	18.2	19.2
	被保護世帯数	117	281	307	338	355	389	406	442
	被保護人員	222	512	561	634	653	706	709	745
	保護率(%)	5.8	10.6	11.6	13.0	13.1	14.2	14.3	15.0

※出典 「福岡県の生活保護」及び「生活保護速報」。

※人口等は各年10月1日の推計人口を利用。ただし、平成22年度は国勢調査。

※保護率は、被保護人員を前年度人口から除して1,000を乗じたもの。